



◆2021 年秋のスギ花粉飛散と 2022 年のスギ・ヒノキ花粉の飛散予想◆

key words: 2022 年スギ花粉飛散予想

そろそろ 2022 年来年のスギ・ヒノキ花粉飛散予報が気になる時期になりました。また、秋に飛散してくるスギ花粉は毎年見られる現象ですが、今年は、10 月より飛散してくるスギ花粉が、現時点で昨年より多い傾向があり、これを感じて受診する方も昨年より多い傾向が認められます。

前年の秋に飛散するスギ花粉と翌年の春飛散するスギ花粉には関連性があり、このことから、来年(2022 年)のスギ花粉の飛散は、関東においては多くなると予想されています。

また、スギ花粉は夏までで花芽の成長が進み花粉がほぼ出来上がってきているため、今年の 9 月のスギ雄花の着花量による観察によっても、関東地方においては昨年より多い花粉が成長しているという報告を参考にしても、来年、都内で飛散してくるスギ花粉は昨年より多くなると予想されています。

スギやヒノキの花粉の着花量は、前年の夏の天候に大きく影響を受けます。7 月から 8 月の花芽の成長時期に受ける太陽エネルギーの量＝日射量(全天日射量)が多いほど発育しやすくなる事は良く知られています。

夏の気象条件からは梅雨明けが早かったもの、8 月中旬には前線が停滞し、日射量がそれほど多くならなかった事、今年の春、全国的に花粉飛散少なかったため、木は樹勢が強まり花粉をつけやすい条件がそろったことを考えると、都内で昨年より 30～40%増、例年平均より 10～20%多めと予想されます。

【2022 年スギ・ヒノキ飛散予測】

【当クリニックの 2022 年のスギ・ヒノキ花粉飛散予想 (2021.11 月、気象条件による予想)】

1.飛散量 (都内)

スギ花粉 5,500 個、ヒノキ花粉 550 個 (ダーラム法：個/cm²・品川区)

昨年の 130～140% (都内において) と増加

2.飛散開始 2 月 10 日すぎ (例年並みと予想されます)

(都内例年平均 2 月 14 日頃)

今後の気候

日本気象協会の発表を参考にすると、

今年の秋からはラニーニャ現象が強まる可能性が高くなっている影響を考えると、

今年の冬は冬型の西高東低の気圧配置となりやすく、日本海側で雪が大雪となりやすく、太平洋側で晴れやすくなる
と推測されますが、長期予報では、平気気温は、東日本で平年並または低い確率ともに 40%と、例年並みの冬かやや
寒いと予想されています。また、今後、冬の終わりまでラニーニャ現象が続く可能性が 60 %、続かない可能性もある
40%と予測されております。

【スギ花粉飛散開始】

今後の気象条件を見る必要がありますが、スギ花粉飛散開始は例年並みの 2 月 10 日頃と予想されます。

参考)長期予報(3 か月予報) - 日本気象協会 tenki.jp (https://tenki.jp/long/three_month/)

◆2021 年秋に飛散してくるスギ花粉(実測)◆

10 月に、3.3 個、11 月には個のスギ花粉が飛散してきており、例年のより多い傾向が認められ、また、
10 月下旬より 11 月に、この飛散により、クリニックでクシャミ、鼻水などの花粉症症状を自覚する方も多い
ことを考えると、2022 年春のスギ花粉飛散は、都内で昨年より多くなる可能性が高くなってきました。
気象条件と一部の地域でのスギ花粉の着花量の調査結果を見ても、花芽の発育は昨年より良いことが確
認されており、30~40%増、例年平均より 10~20%多めと予想されます。

前年秋のスギ花粉飛散と翌年春のスギ花粉飛散数の関係(品川区・ダーラム法:個/cm ²)			
年度	前年秋のスギ花粉	前年秋のヒノキ花 粉	翌年のスギ花粉飛散数
2010	3	0	9623.6
2011	0.9	0	1971
2012	2.4	0	6407.3
2013	1.5	0	1993.4
2014	3	0	2938.1
2015	2.4	0	4184.6
2017	5.7	0	4162
2018	6.9	0	4867.8
2019	3	0	2466.7
2020	5.8	0	3914.7
2021	11 月中 7 個 昨年より多い	現在 0 個	2022 年は昨年より多い飛散の可能性大

【End】

